
るーちかとトスカと琉生

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

るーちかとトスカと琉生

【Zコード】

Z7956Z

【作者名】

じはんライス

【あらすじ】

ライス流創作論。まあ「ぐぐぐ」オーソドックスなものですが……。

「トスカ先生！ 小説はどう書けばいいんですか！」

「ふん！ ただでは教えん！ るーちか。肩をもめ！」

「はい！ 先生！」

「あ。気持ちいい。そこ」

「だいぶ凝つてますね……」

「なんかストレス多いの。華子がすぐに怒るからね」

しかし、トスカはなかなかるーちかに小説の奥義を教えなかつた。例えば、るーちかが、一生懸命、小説を書いて、トスカに渡しても、トスカは、「まだまだ！ ちんかすだ！」としか言わない。全然誉めてくれない。るーちかは誉めて伸びる子だったから、トスカを師匠に選んだのは間違いだつたと最近思う。

るーちかはもう一人の弟子、琉生に相談した。「琉生ちゃん。トスカ先生、なんで小説の奥義教えてくれないのかなあ」「知らないんじゃないだろうか」「まさか。だつて師匠だよ」

るーちかと琉生はワッフルと紅茶が来たので、わいわいガールズトークだ。

午後の日差し。小説なんて陰気なもん書いてる場合じゃないね……

トスカは書斎でカーテンを締め切つて、PCの前で執筆していた。光が漏れると外で遊びたくなるんで、部屋を暗くしてるので。

「全然面白くないな。やり直しだ」

トスカは腕を組んだ。展開に詰まつた。

イライラしてきたので、るーちかと琉生を呼び出した。

「琉生！ るーちか！ 正座しなさい！」

「はい！」

「いいか。お前ら、小説の奥義を教えてやる

「ええええええ」

「ついに」

トスカは、マンガを読ませた。「いいか。ストーリーを徹底的に頭にたたきいれる」「はい！」

そして一時間ほどして、るーちかと琉生はマンガを何回も読んだから内容を覚えた。

「よし。その内容を、文章にしてみる」

「あ。ノベライズってやつですね」

「著作権は大丈夫ですか、トスカ先生！」

「心配いらん。書籍にするわけじゃない」

るーちかと琉生は一生懸命、内容を思い出しながら、文章にした。

「できました！」

「あたしも！」

「よし。お前ら、お互いの文章を読み比べてみる」「はい！」

るーちかと琉生は、原稿を交換した。

「わわわわ。琉生ちゃんの文章、あたしのと全然違う」「ほんとだよ。るーちゃんの文章、あたしのと違う。ストーリーは一緒なのに」

「ふつふふふふ。かなり小説の奥義に近づいてきたな。まずは自分の文章の個性を知るのが大事だぞ。同じ原作だって、ノベライズする作家が違えば、作品は変化していくんだ。同じのはできません」「しかし、トスカ先生！ これではパクリです！」

「そうです！ 被捕されてしまいます！」

「待て待て待て。あわてるな。第一段階だ」「はい！」

「オレがこのマンガを選んだのにはわけがある。これは第何巻だ」「第一巻です」

「よし。お前ら、第一巻を書け」「ええええ。第一巻読んできません！」「第二巻貸してください！」

「だめだ！ 自分で考えて書くんだ！」

「ええええええええ」

るーちかと琉生は一生懸命うんうん唸りながら、第一巻の続きを
考えて書いた。

「よし。お互いのを読み比べて見る」

「琉生ちゃん！ 主人公の彼女、自爆テロで死んじゃったの！」

「るーちゃん！ 主人公の彼女、大統領と浮氣したの！」

「ふつふふふふ」

「トスカ先生！ 何か見えてきました！」

「あたしも！」

しかし、二人はまだ納得いかない。これでは一次創作だ。

「オリジナルが書きたくなつてきました！」

「あたしもオリジナルが書きたい。真似はやだ！」

「ふつふふふふ。わなにはまつたな。それが狙いだったのだ」

「しかし、できるでしちゃうか」

「自信ない……」

「ふつふふふふ。いいか。よく聞け。お前らは、第一段階ノベライズ訓練で、ストーリーの構造を学んだ。技術力は身についた。そして、第二段階一次創作訓練で、自分でストーリーを発展させてく方法を学んだ。つまり、発想力が身についた。そして、最後に一番大事な、オリジナルを書きたいという気持ち。これが生まれた。つまり小説家にとって一番大事な熱意が生まれた。もう怖いものはない」「しかし、トスカ先生。怖いです」

「あたしも！ 悩んで苦しんだりしたらどうしよう…」

「はつはつはははは。その怖さも悩みも苦しみも作家には必要な
ものだ。そういうのがない作家の作品は平板でつまらなくなる。ネ
ガティヴな要素があつた方が作品に奥行きが生まれるんだ。まあ。

「二人とも」

「はい！」

「教えてやつたからパンツ脱げこのやろつー！」

「やだ！」

琉生とるーちかは、トスカをボツコボコにして、PCに向かつた。
萌えたガールたちはもはや止められない。止められないのだ！！
トスカは入院した。あばらが何本か折れた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7956z/>

るーちかとトスカと琉生

2011年12月25日16時51分発行